

漢方医学センター

I プログラムの名称

慶應義塾大学病院 漢方医学初期臨床研修プログラム

II プログラムの指導者

慶應義塾大学病院漢方医学講座

統括責任者	三村 將	精神・神経科学教室教授
教育責任者	渡辺 賢治	慶應義塾大学医学部客員教授
研修医担当主任	堀場 裕子	医局長

III 漢方医学センターの概要・特徴・特色

プライマリケアにおいて、漢方治療が選択肢の一つであることを認識し、漢方医学的概念、診断、治療の概略について習得する。

IV 到達目標

医学の基本概念を学び、診断と治療、漢方薬の生薬構成、方意、適応症状について理解し、西洋医学に必要な漢方薬の知識（副作用など）を身につける。特に、各研修医には将来各自が進む個々の専門分野の中で、現代医学の限界を補完すべく漢方薬を取り入れることが期待される。

- 1) 患者の社会的側面も考慮した良好な患者－医師関係を構築することができる。
- 2) チーム医療において、漢方治療の役割を説明できる。
- 3) 問題解決に向けて、資料を収集し総合的な判断を行えるようにする。
- 4) 医療現場において安全管理ができる。
- 5) 的確な医療面接ができる。
- 6) 症例提示能力を養う。
- 7) 漢方治療を含めた総合的治療計画に参画できる。
- 8) 医療保険制度，社会福祉，文書の記録管理等について理解する。

V 研修方略

研修期間を1か月とする。

- ・ 外来診察，クルズス等により，漢方医学の基礎概念を習得する。
- ・ 外来診察において，漢方医学的診察法，診断法を習得する。
- ・ 生薬勉強会において，生薬の特徴，漢方薬の副作用について理解する。
- ・ 古典輪読会において，傷寒論，金匱要略などの重要古典に触れる。
- ・ 症例検討会において，治療方針の立て方について習得する。

週間スケジュールは以下のとおりである。

	8:40-12:00	13:30-16:30
月曜	外来	外来あるいはクルズス、漢方煎じ
火曜	外来	処方・古典勉強会、初診検討会、リサーチミーティング、生薬勉強会
水曜	外来	外来、漢方煎じ
木曜	外来	外来あるいはクルズス、漢方煎じ
金曜	外来	外来あるいはクルズス、漢方煎じ

VI 研修評価

指導者が協議し評価を行う。

指導医が協議し、以下の4項目からなる研修評価を行う。

研修医氏名					
1	漢方医学的概念	A	B	C	D
2	漢方医学的診断法	A	B	C	D
3	漢方治療	A	B	C	D
4	漢方薬の副作用	A	B	C	D
総合評価					
研修担当指導医署名					

総合評価は A=3, B=2, C=1, D=0 としてスコア化する。12点満点。

さらに、オンライン臨床教育評価システム（EPOC2：
<https://epoc2.umin.ac.jp/epoc2.html>）にて、評価票ⅠⅡⅢの研修医評価、指導医評価、
 メディカルスタッフ評価を実施する。経験すべき症候/疾病・病態を当診療科にて経験した
 場合は、病歴要約の提出を確認し、EPOC2にて承認を行う。2年間の研修修了時には、評価
 票ⅠⅡⅢの各評価がレベル3に到達するよう指導を行う。